

# 令和7年度さとうきび・ 甘蔗糖関係検討会の概要

鹿児島事務所、那覇事務所

## はじめに

当機構では、鹿児島・沖縄両県のサトウキビ生産・  
糖業関係者が一堂に会し、サトウキビおよび甘蔗糖<sup>かんしゃとう</sup>  
を巡る最近の話題や情報を共有するとともに、それ  
ぞれの現場で抱える諸課題に対する取り組みにつ  
いて検討していくことを目的に、「さとうきび・甘蔗  
糖関係検討会」（以下「検討会」という）を開催し  
ている。

令和7年11月6日、徳之島町文化会館（鹿児島  
県徳之島町）において第21回目となる検討会を開  
催し、鹿児島県および沖縄県を中心に、生産者、生  
産者団体、製糖企業、行政機関、試験研究機関、農  
機具メーカーなど総勢170人にご参加いただいた。  
今回は、「さとうきび・甘蔗糖生産の拡大に向けた  
創意工夫」をテーマとして、サトウキビ・甘蔗糖生  
産の拡大に向けた栽培技術、作業の合理化・省力化  
および労働生産性の向上などについて7人の専門家  
や生産者の方からご講演をいただいたので、その概  
要を報告する。

## 1 砂糖をめぐる現状と課題に ついて

農林水産省農産局地域作物課課長補佐の松下雄哉  
氏より「砂糖をめぐる現状と課題について」をテー  
マに、砂糖の需給と糖価調整制度の概要、サトウキ

ビの生産動向、令和8年度予算概算要求の概要、ス  
mart農業技術活用促進法に基づくsmart農業技  
術を活用して生産性向上に取り組む農業者などへの  
新たな支援制度と沖縄県での認定事例などについて  
説明があった（写真1）。



写真1 説明を行う松下氏

## 2 基調講演

基調講演では、沖縄農業技術開発株式会社技術開  
発部長兼土壌医の宮丸直子氏から、「サトウキビ安  
定多収の土づくり～元気な畑で元気なキビ！～」と  
題して発表いただいた。1970年以降の単収の推移  
から、水稻や小麦に比べてサトウキビの単収が向上  
していない要因を分析し、サトウキビの安定多収へ

の第一歩は「土づくり」であるとした。そして、作物の生育に一番影響する土壌の性質が、一般的に化学性や生物性よりも物理性であるとされることから、サトウキビの単収増加のカギとしては、土の硬さ、作土層の厚さ、排水性や保水性などが重要だと説明した。その上で、沖縄県の北大東島の取り組み事例を紹介し、サトウキビ単収に影響する土壌要因の解析結果から、作土深と可給態窒素<sup>(注)</sup>量が単収へ影響することが分かったという。この結果を基に、可給態窒素を増やすには有機物の施用が効果的であり、具体例として緑肥や糖蜜の活用が有効だと分かりやすく解説いただいた。参加者からは大変参考に

なると好評を博し、講演後には、活発な質疑応答が行われた（写真2、図）。

(注) 可給態窒素とは、土壌そのものから作物に供給される窒素のことであり、地力窒素とも言われている。具体的には、土壌の微生物活動（有機物分解や菌体の繁殖など）に伴い、土壌中で発生する窒素である。サトウキビが吸収する窒素のおよそ半分は化学肥料由来であるが、残り半分は可給態窒素のような化学肥料由来以外のものが占めると考えられている。そのため、可給態窒素の維持・向上は、化学肥料の窒素施用と同等にサトウキビ生育にとって不可欠である<sup>1)</sup>。



写真2 講演を行う宮丸氏

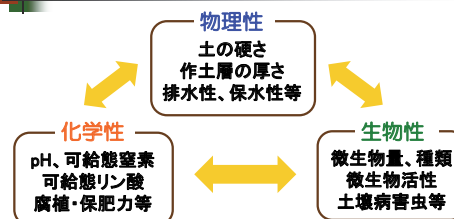
図 宮丸氏の講演資料抜粋

## ■ 本日の内容

1. サトウキビ安定多収の第一歩は？
2. 土づくりから安定多収へ：北大東島の取り組み
3. サトウキビ安定多収のカギ：作土深と可給態窒素
4. 可給態窒素をどう増やす？：緑肥や糖蜜の効果
5. まとめ：元気な畑で元気なキビ！



## ■ 作物生育に一番影響する土壌の性質は？

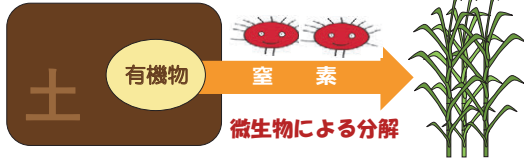


一般的には **物理性** > **化学性** > **生物性**  
あなたの畑は？



## 可給態窒素 (= 地力窒素) とは？

土壌中の有機物が微生物によって分解され、無機化した窒素



作物が吸収する窒素 = 施肥窒素 + それ以外の窒素  
(30~50%) (50~70%)

12

## 作土深を深くするためには心土破砕、 可給態窒素を増やすためには？



堆肥、緑肥、糖蜜、鶏ふん、  
バガスケーキなど有機物を施用する！

19

## なぜマメ科植物が緑肥に？

マメ科植物には根粒菌が共生

根粒菌は空気中の窒素を  
植物が利用できる形へ

マメ科植物を鋤込むと  
窒素が増加！



クロタラリアの根粒

21

## 緑肥すき込みで減肥しても増収！

(数字は10aあたり)

	施肥量	収量 (トン)	販売額 (万円)	緑肥コスト (万円)	施肥コスト (万円)	収益 (万円)
対照区	慣行量	10.9	23.6	0	2.1	21.5
緑肥区	3割減	14.7	31.8	0.4	1.4	30.0



減肥 + 増収で収益向上！

差額: 8.5万円

宮丸 (2025) 『砂糖類・でん粉情報』(2025年3月号), p39-42

## 糖蜜利用のポイント

- ・ 植え付けの2週間前までに施用
- ・ 2-3t/10aを目安に。多量施用しない。
- ・ 施用後はロータリで土壌に混和する。
- ・ カリを減肥して肥料コストを下げる。



更新畑での糖蜜施用の様子



株出し栽培で多量施用し萌芽不良

28

## まとめ：元気な畑を作るには？

- ① 土壌の問題を明らかにする  
土壌調査、診断結果とキビ単収を比較
- ② 問題解決に取り組む  
作土深 ← 心土破砕  
可給態窒素 ← 有機物 (緑肥、糖蜜など)  
酸性土壌 ← 粗砕石灰岩  
排水不良 ← 暗きよ
- ③ サトウキビ安定多収の実現！



## 3 テーマに関する取り組み報告

第一線で活躍している生産者および企業から、今回の検討会のテーマに沿って、いかにサトウキビの単収向上を図っていくかという視点に加えて、作業の合理化・省力化のために、機械化や有機資材など

を効率的に導入するほか、栽培管理や栽培体系を工夫するなどの方策による規模拡大を図っていく視点も交えながら、具体的で、実現可能性のある解決策や、そのヒントについて講演いただいた (表、写真3、4)。

表 テーマに関する報告のタイトルと概要

講演者	タイトル・概要
株式会社仲農産 仲 洋志郎	「規模拡大にともなう単収向上と低コストを目指して」 過去5年間で耕作放棄地3.35ヘクタールを開墾し農地を再生して経営面積を拡大する一方で、土壌分析を行い、土壌改良資材や緑肥による土づくり、早期植え付けによって単収向上を図る。加えて、管理作業の機械化により作業時間の短縮や効率化に取り組む事例の紹介があった。
野原 伸也	「春植え時の取り組み 高単収を目指す植付・栽培管理」 サトウキビの早期植え付けにより茎伸長と茎数を増やすことに加え、優良苗の確保、新植圃場の発芽不良力所への補植、こまめな灌水と施肥により、春植え栽培体系でも高単収を実現している取り組みが紹介された。
ヤンマーアグリ株式会社 営業統括部 商品企画部 高島 大輔	「サトウキビ深植え栽培機械化体系のご紹介 生産性向上と環境負荷低減に向けて」 同社が開発した部分深耕機によって、慣行作業で3工程だったものが1工程へと省力化され、生産コスト低減に寄与する機械化体系を提案した。また、サトウキビを深溝に植え付けたことにより、倒伏軽減、機械収穫による欠株を防ぐなどの実証の結果も合わせて報告された。
EF Polymer株式会社 事業開発・営業担当 高良 吟二	「EFポリマー ～オーガニック吸収性ポリマーで農業を持続可能に～」 有機物から作られ、生分解性を有する吸水性ポリマーの圃場への散布によって、干ばつ被害の軽減、保水性の向上効果に起因して肥料成分の流出防止による肥料使用量の軽減などが期待されるとし、サトウキビでの施用方法や他の農作物での実証事例について報告された。



写真3 テーマに関する報告の質疑応答の様子



写真4 熱心に講演に耳を傾ける参加者



## 4 研究成果発表など

サトウキビに関する最近の研究成果や砂糖の国際需給について、以下の2者より発表いただいた（写真5）。

- (1) 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 種子島研究拠点 カンショ・サトウキビ育種

グループ グループ長補佐 樽本 祐助

「『茎数型サトウキビ品種の活用の手引き』の紹介」

- (2) 独立行政法人農畜産業振興機構 調査情報部 国際調査グループ  
「砂糖の国際需給（主要国のサトウキビ生産を中心に）」

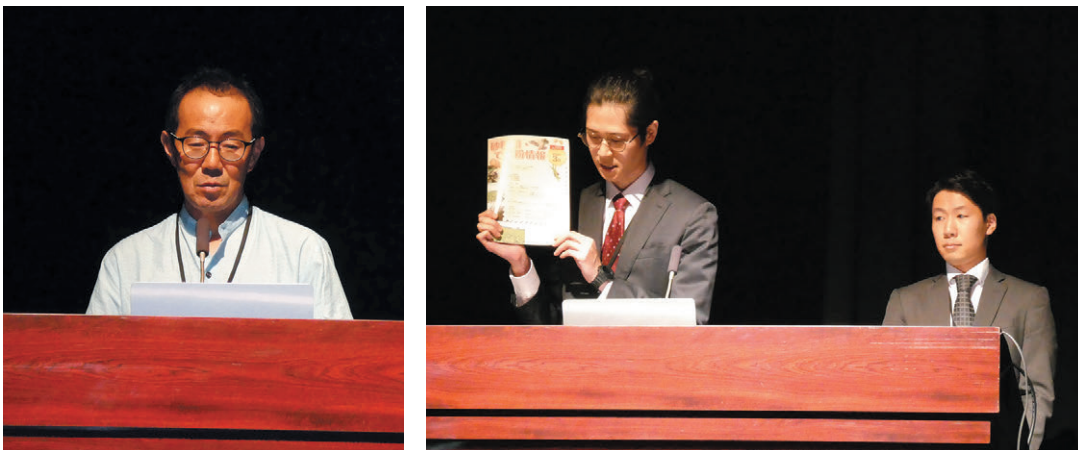


写真5 研究成果発表を行った樽本氏（左）、情報提供を行った機構職員（右）

## 5 現地視察

検討会の翌日（11月7日）は、検討会の参加者を対象に、サトウキビ生産に対する理解をより一層深めてもらうため、以下の通り現地視察を実施した。

実証圃場に出向き、実際にサトウキビや作業機械の実物を見ながら説明を聞くことができたため、参加者からは、「とても有意義だった」、「リアルな現場を知ることができて勉強になった」、「地元の生産者にも展示されていた農業機械を見る機会を作りたい」など好意的な意見・声が数多く寄せられた（写真6）。

- (1) 参加人数 約120人

### (2) 視察先

- ア 鹿児島県農業開発総合センター（鹿児島県大島郡伊仙町）
- ・同センター徳之島支場（実証圃場、研究内容の紹介）
  - ・有限会社大竹興産（ビレットプランター、すき込み施肥機の紹介）
  - ・ヤンマーアグリ株式会社（部分深耕機の紹介）
  - ・EFポリマー株式会社（吸水性ポリマーを施用したサトウキビ実証圃場の紹介）
- イ サトウキビ生産圃場（同天城町）
- ・株式会社仲農産（サトウキビ圃場、作業機械の紹介）



写真6 現地視察の様子

## おわりに

検討会終了後、アンケートを行った結果、講演内容について「大変参考になった」および「ある程度参考になった」を合わせると、99%の回答者が参考になったと回答した。

これもひとえに、ご登壇いただいた講演者の皆さま

まをはじめ、今回の検討会の開催に当たり、ご協力いただいた鹿児島県、沖縄県の関係者の皆さま、開催地の徳之島さとうきび生産対策本部（徳之島町役場、天城町役場、伊仙町役場、JAあまみ鹿児島県農業開発総合センター徳之島支場、鹿児島県大島支庁徳之島事務所、南西糖業株式会社など）のご支援とお力添えの賜物と心より感謝申し上げます。

### 【参考文献】

- 1) 吉田晃一（2025）「糖蜜施用がサトウキビの生育・収量および土壌化学性に及ぼす影響」『砂糖類・でん粉情報』10月号、独立行政法人農畜産業振興機構  
[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_003422.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003422.html)

